

2022年3月期 第1四半期

(2021年4月～2021年6月)

決算説明資料

2021年8月6日（金）

 東洋合成工業株式会社

1. 2022.3月期 第1四半期 決算概要

2. 2022.3月期 業績見通し

2022年3月期 第1四半期 業績ハイライト

- 半導体・電子材料の強い需要により、四半期では売上高・利益全て過去最高を更新。
- 売上高は、8,309百万円（前年同期比※+1,719百万円、※+26.1%）
- 利益面は、営業利益1,492百万円（同+731百万円、+96.2%）
経常利益1,475百万円（同+694百万円、+88.9%）
当期純利益1,020百万円（同+477百万円、+88.0%）

(百万円)	前期1Q 実績	当期1Q 実績	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	6,589	※8,309	※+1,719	※+26.1%
営業利益	760	1,492	+731	+96.2%
経常利益	781	1,475	+694	+88.9%
当期純利益	542	1,020	+477	+88.0%
為替レート	¥108/\$	¥110.5/\$		

※2022年3月期の期首より「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号2020年3月31日）を適用しております。
この結果、前第1四半期累計期間と会計処理が異なります。
前年同期比に関しては、新基準と旧基準を比較した参考数値となります。

2022年3月期 第1四半期 決算のポイント

■売上高

- ✓ 8,309百万円（前年同期比※+1,719百万円、※+26.1%）
- ✓ 感光材セグメント：半導体用途は前下半期から好調が継続。
ディスプレイ用途は前期4Qからの好調が継続。
- ✓ 化成品セグメント：電子材料関連は好調持続。
香料材料関連も堅調に推移。
ロジスティック（ケミカルタンクターミナル）事業は、国内の
化学品需要の市況がコロナ前水準まで戻り、荷動き量が回復。

■営業利益

- ✓ 1,492百万円（同+731百万円、+96.2%）
- ✓ 感光材の設備能力増強に伴う労務費・償却費等（+219百万円）が増加。
- ✓ 全社的に高付加価値製品の販売が拡大し、増益。

■経常利益

- ✓ 1,475百万円（同+694百万円、+88.9%）
- ✓ 営業外収益：当期は受取保険金等の発生はなし。（△35百万円）

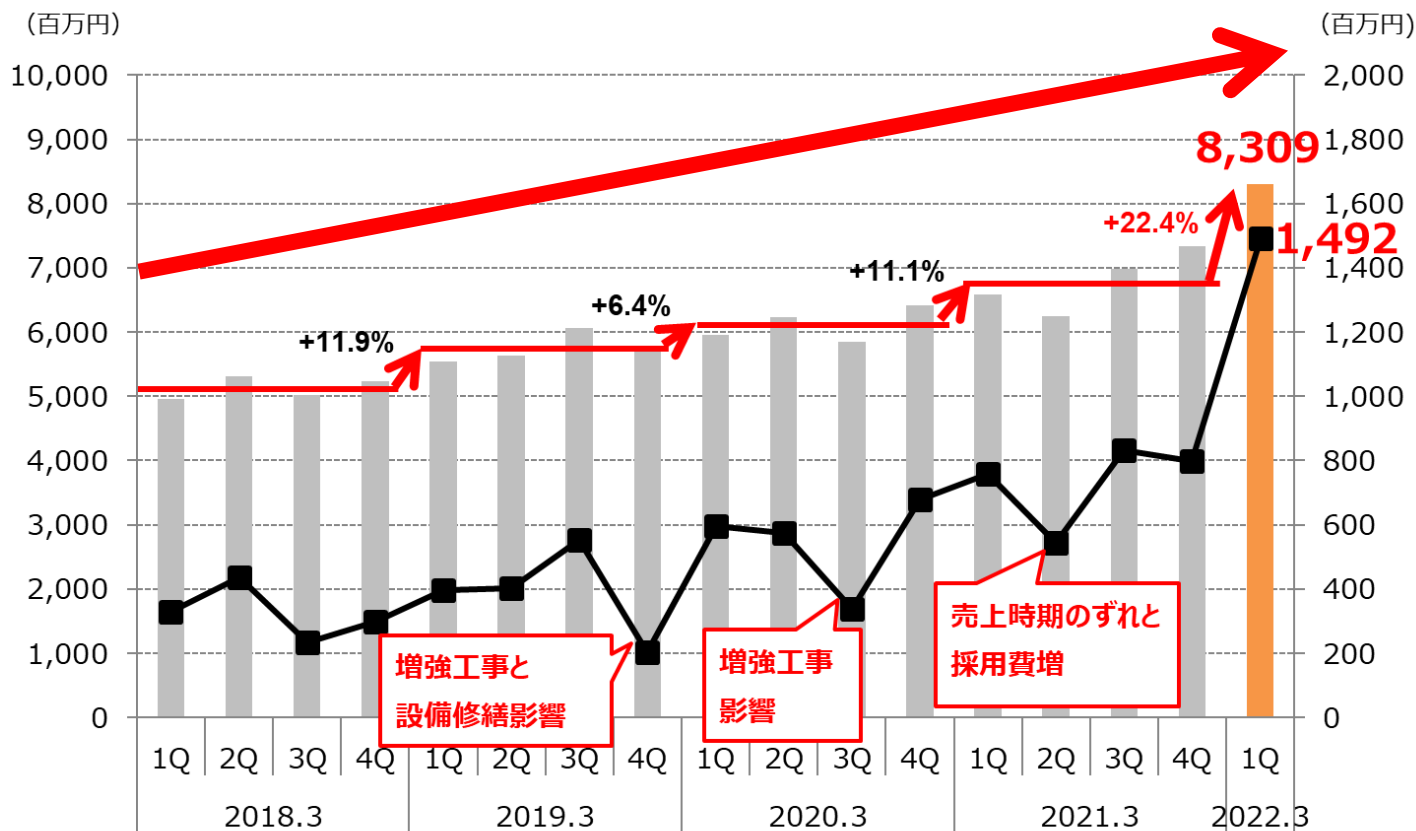
■当期純利益

- ✓ 1,020百万円（同+477百万円、+88.0%）

四半期別 売上高・営業利益推移

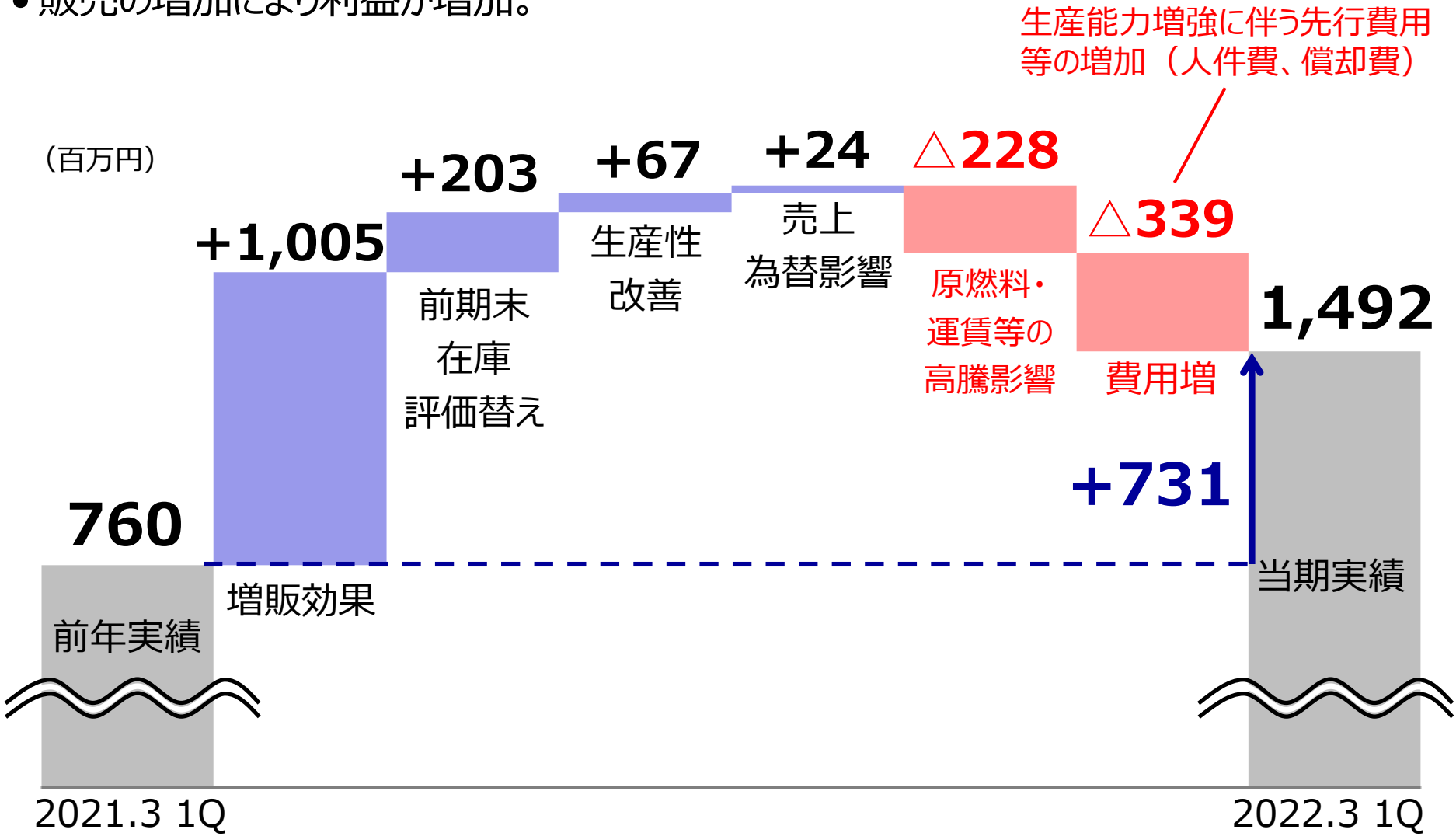
- 第1四半期の売上高は8,309百万円（前年同期比 ※+1,719百万円、※+26.1%）
- 営業利益は1,492百万円（前年同期比+731百万円、+96.2%）
- 四半期での営業利益は過去最高を更新。

四半期別 売上高・営業利益 推移



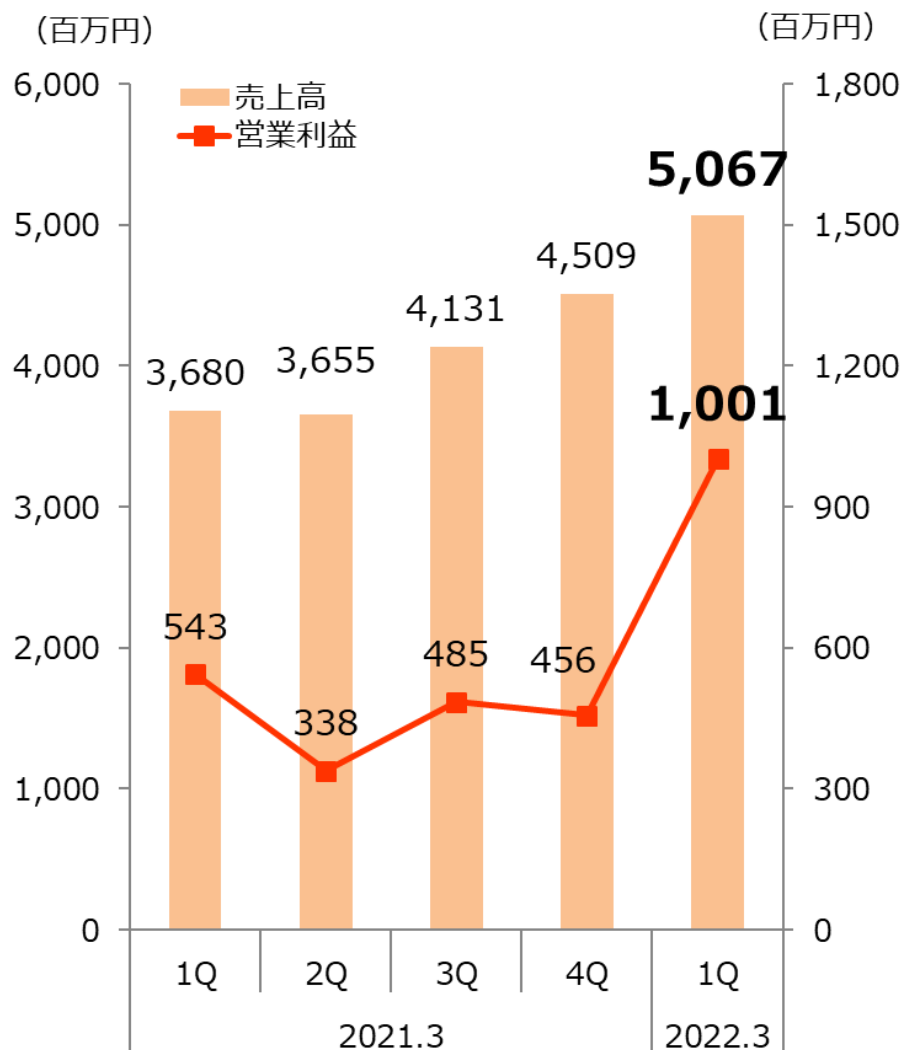
営業利益 増減要因

- 原燃料・運賃等の高騰による費用増や成長投資の固定費が増加。
- 販売の増加により利益が増加。



感光性材料セグメント

売上高・営業利益



売上高：5,067百万円

(前年同期比※+1,386百万円、※+37.7%)

- 半導体用途は前下半期から好調が継続。
- ディスプレイ用途は前期4Qからの好調が継続。

営業利益：1,001百万円

(同+458百万円、+84.4%)

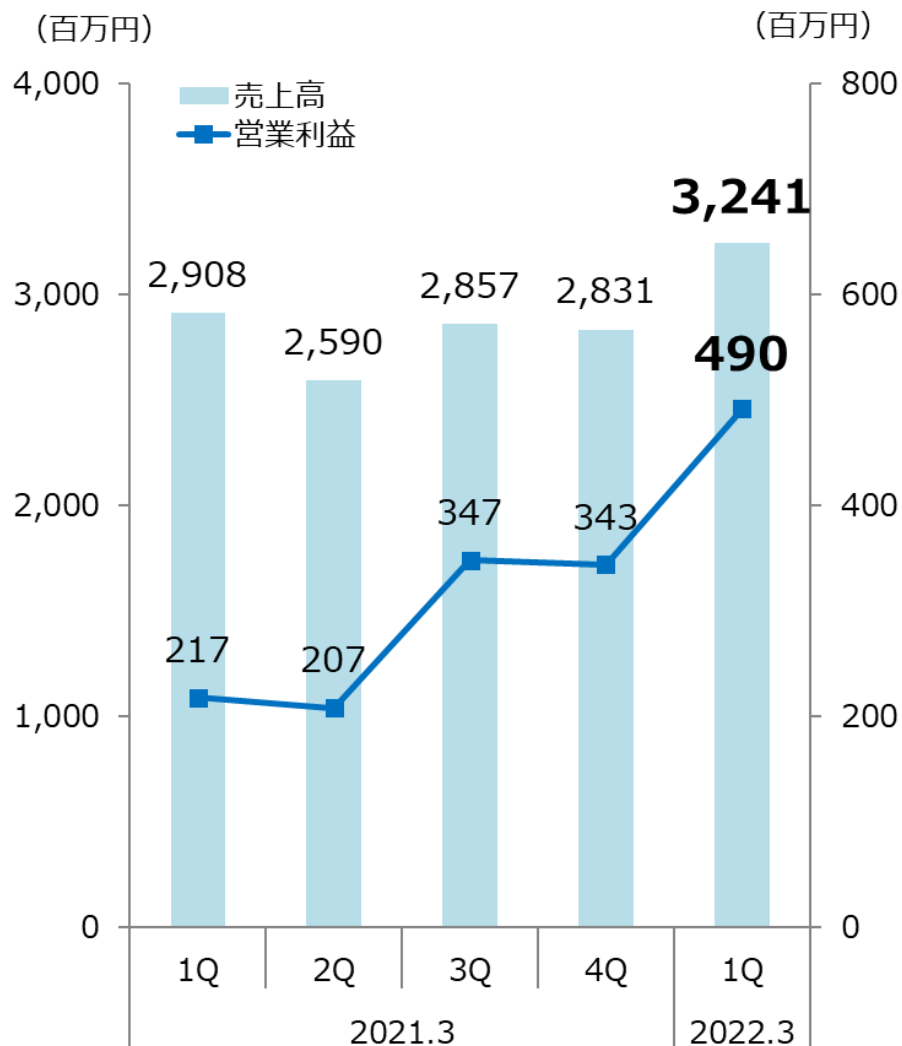
- 半導体用途、ディスプレイ用途全ての領域で製品販売が増加し増益。
- 感光材の設備能力増強に伴う労務費・償却費等が増加。

※収益認識会計基準等の適用により、従来の方法に比べ、売上高は95百万円の減少。

前年同期比に関しては、新基準と旧基準を比較した参考数値となります。

化成製品セグメント

売上高・営業利益



売上高：3,241百万円

(前年同期比※+333百万円、※+11.5%)

- 電子材料関連は好調持続。
- 香料材料関連は堅調に推移。
- ロジスティック事業は、国内の化学品需要の市況がコロナ前水準まで戻り、荷動き量が回復。

営業利益：490百万円

(前年同期比+273百万円、+125.6%)

- 需要拡大に伴う増産により増益。
- 原燃料の価格高騰に伴い販売価格への反映を進めた。

※収益認識会計基準等の適用により、従来の方法に比べ、売上高は162百万円の減少。

前年同期比に関しては、新基準と旧基準を比較した参考数値となります。

2022年3月期 第1四半期 損益計算書

- 売上高は8,309百万円（前年同期比※+1,719百万円、※+26.1%）。
- 売上総利益率は、工場稼働の上昇と先端領域製品の増加により5.5ptの改善。

(百万円)	2021.3期 1Q	2022.3期 1Q	増減額	増減率
売上高	6,589	8,309	※+1,719	※+26.1%
売上原価	5,070	5,936	+866	+17.1%
売上総利益	1,518	2,372	+853	+56.2%
販売管理費	757	879	+121	+16.1%
営業利益	760	1,492	+731	+96.2%
営業外収益	59	27	△31	△52.9%
営業外費用	39	45	+6	+15.7%
経常利益	781	1,475	+694	+88.9%
特別損益	△11	△3	+8	+72.8%
税引前当期純利益	769	1,472	+702	+91.3%
法人税等	226	452	+225	2倍
当期純利益	542	1,020	+477	+88.0%

※2022年3月期の期首より「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号2020年3月31日）を適用しております。
この結果、前第1四半期累計期間と会計処理が異なります。
前年同期比に関しては、新基準と旧基準を比較した参考数値となります。

2022年3月期 第1四半期 貸借対照表

- 株主資本は、当期純利益の増加により、940百万円の増加。
- 自己資本比率は31.6%（前期末比+2.2pt）と30%を超過。

(百万円)	2021.3末	2021.6末	増減額
流動資産	16,998	17,613	+615
現金預金	3,794	4,043	+249
売上債権	5,386	6,081	+694
棚卸資産	6,983	7,097	+114
その他	833	390	△442
固定資産	26,520	25,844	△676
有形固定資産	24,908	24,403	△504
無形固定資産	523	512	△10
投資・その他	1,088	927	△160
資産合計	43,518	43,457	△61

(百万円)	2021.3末	2021.6末	増減額
負債	30,727	29,722	△1,005
仕入債務	3,470	4,101	+630
有利子負債	19,987	21,025	+1,037
その他	7,269	4,595	△2,673
純資産	12,790	13,735	+944
株主資本	12,750	13,691	+940
評価・換算差額等	40	44	+3
負債・純資産合計	43,518	43,457	△61

[自己資本比率]
31.6%（前期末比+2.2pt）

1. 2022.3月期 第1四半期 決算概要

2. 2022.3月期 業績見通し

2022.3月期 業績予想・進捗状況

- 上期業績予想の進捗率は下記のとおり。
- 想定為替レートは¥105/\$。

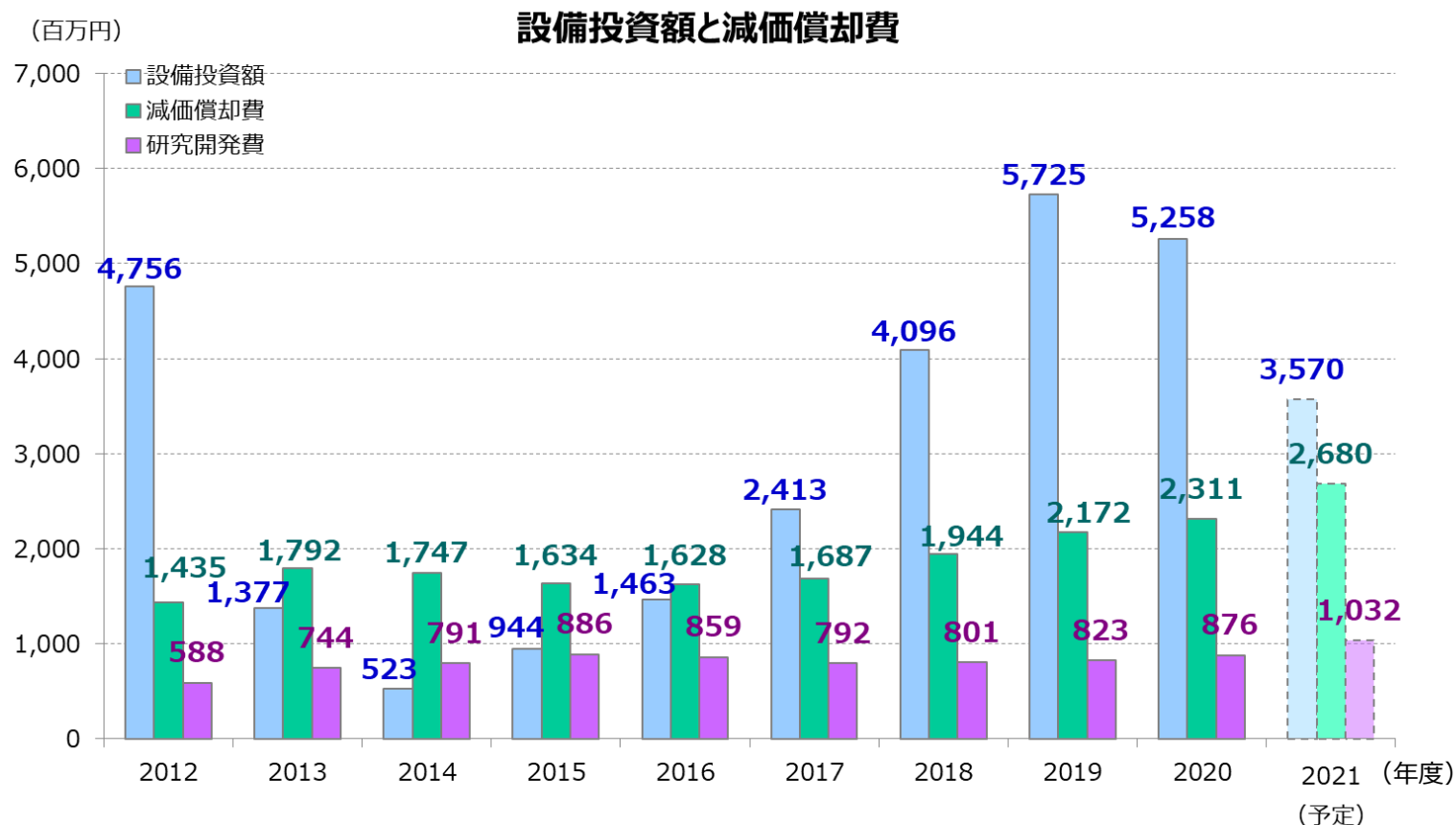
(百万円)	2022.3 上期業績予想	2022.3 1Q 実績	進捗率
売上高	15,000	8,309	55.4%
営業利益	1,980	1,492	75.4%
経常利益	1,900	1,475	77.7%
当期純利益	1,300	1,020	78.5%

今後の見通し

- 前期からの好調な半導体市況に支えられ、感光性材料、化成品ともに需要が急速に高まり、対前年同期比で大幅な増収増益となりました。これに伴い、上期業績予想に対する進捗度も高くなっています。
- しかし、第2四半期以降、原油と原材料価格の急騰に加え、8月、10月等の定期修繕、昨年稼働した最新鋭の第4感光材工場の稼働上昇に伴い、売上原価算入の大幅上昇が見込まれ、先行予測が不透明な状況が予想されます。このため、現時点での業績予想は変更しないこととさせていただきます。
- 当社としましては、中期経営計画TGC300の目標値の早期実現とさらなる高みを目指し、邁進してまいります。

設備投資・減価償却・研究開発の推移

電子材料の需要拡大に伴い、2017年度から生産能力増強を継続実施。
大型投資は一巡し、2021年度の設備投資は約35億円を計画。今後も継続予定。
研究開発は製造技術力強化（分析能力強化、生産性向上、試作設備増強）により+1.5億円を計画。



独創的な視点で世界へ

Individual Development, to the global Chemical

東洋合成工業株式会社

(見通しに関する注意事項)

本資料の業績予想は、現時点において見積もられた見通しであり、これまでに入手可能な情報から得られた判断に基づいております。

従いまして、実際の業績は、様々な要因やリスクにより、この業績予想とは大きく異なる結果となる可能性があり、いかなる確約や保証を行うものではありません。